

令和 5 年 5 月 29 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18H00602

研究課題名(和文) 人称による正義・道徳観の変化に関する実験政治哲学研究

研究課題名(英文) Experimental Studies on the Significance of Different Person-Viewpoints in Political Philosophy

研究代表者

井上 彰 (Inoue, Akira)

東京大学・大学院総合文化研究科・教授

研究者番号：80535097

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では視点が一人称から二人称、あるいは三人称的観点へと変化したとき、人びとの評価的判断がどのように変化するのか、そして、その変化と正義と道徳が独自に有すると思しき領域に関する議論の妥当性を、多様でかつ大きいサイズのサンプルが得られるサーベイ実験により検証した。そのうえで、上記実験によって得られた知見が政治哲学にいかなる含意を与えるのかについて考察をおこなった。その成果は、哲学・倫理学系や政治学系の学会にて報告しつつ、共著で論文を執筆し、国内外の査読付き学術誌・アンソロジー(主として英語によるもの)に投稿・寄稿し、多くの論考を公刊することで発表することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果は、政治哲学の論争に一定の視座を提供しうる経験的基盤を、一般の人を被験者とするサーベイ実験によって明らかにし、これまでになく新たな政治哲学的知見を提供するものであった。それにより、純粹理論上の判断と実際の人びとの判断を架橋することができ、われわれがコミットしうる正義と道徳についての再定位を図ることができた。すなわち、単なる理想的な空理空論としてではなく、「地に足の着いた」正義や平等のあり方を示すことができた。

研究成果の概要(英文)：In this research, we examined how people's evaluative judgments change when the perspective of evaluation changes from first person to second and third person. By doing so, we examined the validity of arguments related to normative domains of justice and morality. To this end, we conducted several types of online survey experiments that allow us to obtain a relatively large and diverse sample.

We then considered the implications of the results of our experiments for political philosophy. The results of this research have been reported at the workshops and conferences in the fields of philosophy, ethics, and political science, and our co-authored papers have been written and submitted to peer-reviewed academic journals and edited volumes (mostly in English), many of which have already been published.

研究分野：政治哲学・倫理学

キーワード：実験政治哲学 政治哲学 倫理学 正義論 平等論 サーベイ実験

1. 研究開始当初の背景

倫理学・政治哲学においては旧来より、各人の自己利益などから距離を置き、公平な判断を導き出すための「不偏的視点」が重視されてきた。ロールズは無知のヴェール、すなわち、誰もが自分の生まれつきの能力や社会的地位について知らない状況の中で合理的に選択される原理こそ、全員が遵守しうる「正義」原理となることを論じ、以降論争がやむことなく続いている。

しかしそうした原理は、いかなる不偏的視点によって導き出されるべきなのだろうか。ロールズの議論では、間主観的視点としての二人称的観点が重視されている。これとは対照的に功利主義では、三人称的な不偏的観点から全体の利益への評価が可能だと想定されている。こうした人稱的観点の相違は、現代の平等論をめぐる論争における重要な論点でもある。平等論には自分では統御不可能な要因を「(自然の)運」と捉え、その影響の中和を謳う運の平等論と、人間同士が抑圧的な関係に陥らないように分配を進めていくことを重視する関係的平等論がある。

このように人稱的観点の違いが理論間の相違や論争を生んでいるとの認識が深まる一方で、その観点の相違が実際の人びとの道徳や正義にかかわる評価的判断にどのように影響を与えるのかという研究は十分に行われていない。

経験科学領域では、進化生物学、行動病理学、道徳心理学など、倫理をめぐる問題に取り組む研究が急速に進展している。正義や平等をめぐる研究においても、実際に異なる人稱的観点がどのような正義原理を導くのかについて実験することは可能であろう。そのような人稱による評価的判断の違いを経験的に測定する研究は、正義や道徳の関係を再定位することにも繋がる。その点は、研究開始当初においても、また今日においても変わることなく言えることである。

2. 研究の目的

本研究では、人稱的観点の違いによって繰り広げられる政治哲学上の論争に対し、一定の視座を提供しうる経験的基盤を実験により、これまでにない新たな政治哲学的知見を提供するものである。とくに本研究では、人稱による評価的判断の変化やその差異の要因をオンラインでおこなうサーベイ実験を通じて明らかにし、そして、その作業を通じて我々が希求する正義や道徳について再定位を図ることを試みる。

本研究の特色は、正義や道徳の再定位を図り、それらが機能する独自の領域が存在することを明らかにすることで、社会規範の由来や所在の解明を目的とする社会・進化心理学的研究などとは異なる視座を提供するものである。また、実験政治哲学という新たな研究領域の確立を目指す点も、大きな特色としてあげられる。未だ政治哲学では、実験的手法をその方法として導入する研究は少ないなかで、サーベイ実験により正義や道徳の経験的基盤を探る本研究は、既存の方法論を刷新する試みでもあると言える。

以上の特色を有する本研究は、人稱的観点を軸に正義と道徳の体系を問い直す試みであるという点で、政治哲学への含意を多分に持ち合わせた研究である。人稱的観点による評価的判断の経験的变化を探る本研究は、正義の具体的な要求がどのような特徴を有するのかについて明らかにすることを目的とするものである。

3. 研究の方法

本研究では視点が一人称から二人称、あるいは三人称的観点へと変化したとき、人びとの評価的判断がどのように変化するのか、そして、その変化と正義と道徳が独自に有すると思しき領域に関する議論の妥当性を、大きいかつ多様なサンプルが得られるサーベイ実験により検証する。

数ある評価的判断のうち、本研究が着目するのは主に資源分配についての判断である。したがって、資源分配に関する選好に対して人稱的観点の変化が与える影響を実験により明らかにすることが、本研究における最たる検討課題となる。もちろん、実験結果に基づきつつ、政治哲学の観点から正義や道徳の適切な役割について検討を加え、政治哲学の深化を図ることも本研究における重要課題の一つである。

本研究は、実験政治哲学という新しい領域での研究である点や異なるタイプの実験を複数回実施する点などを考慮し、研究期間は4年間とする。この研究期間の間、二人称班(坂本治也・善教将大・秦正樹)と三人称班(清水和巳・若松良樹・宇田川大輔)のそれぞれが、相互に綿密な打ち合わせをおこないながら、複数の実験を実施する。なお代表者の井上彰は、両グループの調整並びに研究プロジェクト全体の統括も行うこととする。

本研究はまず2018年度に、倫理学や政治哲学、実験的手法などに関する先行研究の整理・検討をおこなった後、すぐに実験設計に関する打ち合わせをおこない、サーベイ実験のプリテストを同年の終わりまでに実施する。2019年度以降、断続的に日本人を対象とするサーベイ実験(本実験)を実施する。調査対象は18歳以上男女だが、調査会社のモニタを利用する(性別、年齢比などが国勢調査と一致する形で調整)。

最後に2021年度に結果を総括すると同時に、上記実験によって得られた知見が政治哲学にいかなる含意を与えるのかについての考察をおこなっていく。実験によって得られた知見がどの理論のどの前提、推論あるいは構想にインプリケーションを与えるものなのかを具体的に検討

し、人称的観点を軸にいかなる正義と道徳の体系がそれぞれの価値の適正な使用を促すのかについて考察を加える。研究成果は、積極的に哲学・倫理学系、政治学系、経済学系の学会にて報告しつつ、共著で論文を執筆し、国内外の査読付き学術誌へ投稿する。さらに実験政治哲学の最前線という形で研究成果をまとめた著作の公刊も目指す。

4. 研究成果

(1)2018年度は、研究代表者である私井上彰を中心に、倫理学や政治哲学、実験的手法にかんする先行研究のサーベイをおこないつつ、科研メンバーが一堂集まったうえで実験に向けての打ち合わせをおこなった。そのうえで、サーベイ実験のプリテストを中心に、二人称班と三人称班に別れて実験をおこなった。

先行研究のサーベイについては、井上彰が(共)編著者となって『ルールズを読む』(ナカニシヤ出版、2018年)、『人口問題の正義論』(世界思想社、2019年)として公刊したのを皮切りに、二人称班と三人称班の理論パートをそれぞれ担当する坂本治也と若松良樹が、本科研のプロジェクト、すなわち、実験政治哲学のプロジェクトに還元しうる研究成果をあげている。

科研メンバーが一堂に集まるミーティングについては、6月15日(金)14:30~17:00に早稲田大学3号館12階ディスカッションルームにて開催された。当該打ち合わせでは、今後取り組むべき実験政治哲学研究について話し合わせ、とくに運の平等論実験(三人称班)と無知のヴェール実験(二人称班)の有意義性について批判的に検討した。

そのうえで、2018年度夏以降、各班に別れて実験をおこない、三人称班についてはその一部がReview of Philosophy and Psychology掲載の論文として結実し、二人称班については論文執筆中のものと現在投稿中の論文となっている。くわえて、善教将大や秦正樹の実験政治学的研究成果や、清水和巳と宇田川大輔による共著は、実験政治哲学のプロジェクトに直接的に貢献しうる成果とみなしうる。

(2)2019年度の研究では、2018年度におこなった先行研究のサーベイやプリテストをふまえてサーベイ実験を2件、実施した。調査会社(株式会社サーベイリサーチセンター)のモニタを利用し、性別・年齢比などを国勢調査と一致させるよう調整するなどして、サンプリングに最大限の注意を払うかたちで実験をおこなった。

二人称班では秦正樹を中心に、政治哲学において現在注目を集めているロトクラシーやエピストクラシーの受容度にかんする実験をおこない、二人称班が重視する「地に足の着いた」不偏的道德原理の探究に向けた本格的調査を実施した。三人称班では、清水和巳を中心に、無知のヴェール実験において、分配される側の人数の違いが及ぼす影響にかんする実験、および、トロリー問題への正義論上の「公開性」要求の影響について実験をおこない、三人称の道德倫理にかかわる貴重な実験データが得られた。両者とも、次年度に予定している追加実験や、学会報告や論文公刊といった、直接の研究成果につながる実験となった。

研究打ち合わせについては、二人称班、三人称班ともに断続的におこない、実験デザインの練り直しや現在投稿中の論文の再査読・再提出に向けての調整・準備をおこなった。

具体的な成果としては、研究代表者の井上彰が、実験政治哲学研究の思想的・方法論的基礎となる知見を提供しうる『正義論』(共著)を公刊したのを皮切りに、坂本治也・秦正樹ほかによる市民参加にかんするサーベイ実験に基づく研究成果、若松良樹らの世代間正義における独立性の問題といった、三人称的観点にかかわる世代間倫理の問題に迫る研究成果、清水和巳らの時間不整合性にかんする実験研究の成果、善教将大の維新支持の構造に迫る実証的研究の成果、そして、宇田川大輔らによる所有者の購入価格がレントに与える影響に迫る実験研究の成果があげられる。

(3)2020年度についてはコロナ禍により、計画通りに実験ができずに予定していた実験費用分を繰り越さざるを得なかった。2021年度についても、引き続きコロナ禍に見舞われたことで、実験の実施は年度末になった。ただ2021年度は、これまでのサーベイ実験の結果を総括し、これまでの実験によって得られた知見が実験政治哲学、ひいては政治哲学にいかなる意義をもたらすのかについて検討する成果を公表した。具体的には、実験によって得られた知見がどの理論のどの前提、推論あるいは構想にインプリケーションを与えるものなのかを検討し、人称的観点を軸にいかなる正義と道徳の体系がそれぞれの価値の適正な使用を促すのかについて考察を加えた成果を日本語と英語で発表した。

たとえば、トロリー問題への正義論上の「公開性」要求の影響にかんする三人称班の実験研究について、その成果("The Trolley Problem and the Ethics of Autonomous Vehicles in the Eyes of the Public: Experimental Evidence" In *Autonomous Vehicles Ethics: The Trolley Problem and Beyond*)が公刊された。また、代表者の井上彰はその成果をふまえて、実験政治哲学において、単に規範的原理が受容可能であるかどうかだけでなく、実践されるものであるかどうかを確かめることの重要性について日本選挙学会にて報告した。この成果は、将来岩波書店から刊行予定の井上彰著『実験政治哲学』に収録される予定である。

(4)2021年度末におこなった二人称班、三人称班それぞれのサーベイ実験により、有意義な結果

が得られたことをふまえ、それぞれの班で当該結果をふまえて論文化の作業をおこなった。

二人称班では、人びとが社会規範の影響を受けて、自らが正しいとする判断の表明を控え、世間迎合的な選好を形成するメカニズムを明らかにすべく、投票権を付与する若者の年齢を引き下げることについてのサーベイ実験を実施した。その結果、バイアスが顕著に検出された。すなわち、若年層の投票権付与に代表されるセンシティブなイシューの場合、人びとが自らが正しいとする選好の表明を控える傾向があることがわかった。なお、その結果をふまえて、"Sensitivity Bias in the Preferences Regarding Youth Suffrage: Evidence from a List Experiment in Japan"と題する論文を投稿準備中（完成目前）である。

三人称班では、事態を評価対象とする分配的正義のパターン原理のうち、どのモデルがより直観適合的かについてサーベイ実験をおこない、その適合性を AIC に基づくモデル適合性によって測定する方法について検討した。その結果は、モデル適合性をふまえたパターン原理の検証の方法論上の有意義性を示すものであった。なおその結果をふまえて、"Real Reflective Equilibrium and Model Selection: A Methodological Proposal from a Survey Experiment on the Theories of Distributive Justice"と題する論文を執筆し、投稿した（現在審査中）。

事故繰越により、4年で完結する予定だった本研究プロジェクトは、2022年度まで継続するかたちになったが、その分、論文化に力を入れたこともあり、優れた研究成果をあげることができた（あるいは、その見込みである）ことをここに記しておきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計37件（うち査読付論文 23件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 16件）

1. 著者名 Inoue Akira	4. 巻 0
2. 論文標題 The Proper Scope of the All-Subjected Principle	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Political Studies Review	6. 最初と最後の頁 1~9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1177/14789299231160513	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Inoue Akira	4. 巻 27
2. 論文標題 A Lockean Theory of Climate Justice for Food Security	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 The Journal of Ethics	6. 最初と最後の頁 151~172
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s10892-022-09414-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Inoue Akira	4. 巻 50
2. 論文標題 The Harshness Objection is Not (too) Harsh for Luck Egalitarianism	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Philosophia	6. 最初と最後の頁 2571~2583
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s11406-022-00562-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Inoue Akira, Miyagishima Kaname	4. 巻 30
2. 論文標題 A Defense of Pluralist Egalitarianism under Severe Uncertainty: Axiomatic Characterization*	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Political Philosophy	6. 最初と最後の頁 370~394
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/jopp.12276	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Cato Susumu, Inoue Akira	4. 巻 36
2. 論文標題 Libertarian approaches to the COVID 19 pandemic	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Bioethics	6. 最初と最後の頁 445 ~ 452
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/bioe.13007	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上彰	4. 巻 63
2. 論文標題 道徳的契約論と合理的契約論：ロールズ『正義論』を起点とする政治哲学の進展の一側面	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 経済学史研究	6. 最初と最後の頁 32-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Inoue Akira	4. 巻 -
2. 論文標題 6. A Lockean approach to justice for food security under global climate change	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Justice and food security in a changing climate	6. 最初と最後の頁 58-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3920/978-90-8686-915-2_6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 秦正樹	4. 巻 28-2
2. 論文標題 世論は野党に何を求めているのか? :2021年総選挙を事例としたヴィネット実験による検証	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 選挙研究	6. 最初と最後の頁 20 ~ 33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 秦正樹	4. 巻 2022-2
2. 論文標題 改憲世論の高まりは「北朝鮮のおかげ」?: プライミング実験とリスト実験の融合による検証	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 年報政治学	6. 最初と最後の頁 168 ~ 189
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 秦正樹	4. 巻 2022-1
2. 論文標題 ドラマにおける「悪い政治家像」は現実政治にも投影されるか?: 「半沢直樹」を題材としたサーベイ実験より	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 年報政治学	6. 最初と最後の頁 166 ~ 188
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 秦正樹	4. 巻 -
2. 論文標題 なぜ、野党支持者は一枚岩になれないのか?: 自助 公助意識から見る野党に対する感情の交差	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 自助・共助・公助の政治学 (関西大学)	6. 最初と最後の頁 33-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 秦正樹	4. 巻 2022(1)
2. 論文標題 ドラマにおける「悪い政治家像」は現実政治にも投影されるか?: 「半沢直樹」を題材としたサーベイ実験より	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 年報政治学	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小嶋 新・坂本 治也・鬼本 英太郎	4. 巻 72(6)
2. 論文標題 兵庫県における一般社団法人とNPO法人の実態調査からの考察	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 関西大学法学論集	6. 最初と最後の頁 202～218
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 坂本治也	4. 巻 37
2. 論文標題 新自由主義は市民社会の活性化をもたらすのか：自己責任意識と市民的参加の実証分析	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 選挙研究	6. 最初と最後の頁 5-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂本治也	4. 巻 -
2. 論文標題 愛国心と市民参加：愛国心の向上は活動的市民の増加につながるのか	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 自助・共助・公助の政治学（関西大学）	6. 最初と最後の頁 1-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 善教将大	4. 巻 39(1)
2. 論文標題 旧住所での選挙人名簿登録が投票参加に与える影響：芦屋市を事例とする分析	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 選挙研究	6. 最初と最後の頁 0～0
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 善教将大	4. 巻 2023-1
2. 論文標題 利便性の高い場所に設置された期日前投票所が投票率に与える影響：一般化合成統制法 (Generalized Synthetic Control Method) による効果検証	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 年報政治学	6. 最初と最後の頁 0~0
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 善教将大、木村高宏	4. 巻 37
2. 論文標題 サーベイ実験における警告メッセージの有効性	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 選挙研究	6. 最初と最後の頁 86-93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 善教将大	4. 巻 76
2. 論文標題 知事のリーダーシップと広域連携への支持	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 公共選択	6. 最初と最後の頁 105-124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上彰	4. 巻 2018
2. 論文標題 概念分析・論敵との真摯な対峙・平等：宇佐美書評への応答	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 法哲学年報	6. 最初と最後の頁 121-126
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秦正樹	4. 巻 67
2. 論文標題 地方議会における「会派」の政治的意味:関西圏の政令市市議会の議事録を用いた分析	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 関西大学法学研究所研究叢書	6. 最初と最後の頁 99-120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoshiki Wakamatsu, Koichi Suga	4. 巻 E1901
2. 論文標題 On the Independence of the Event in the Context of Intergenerational Justice	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 WINPEC	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 若松良樹	4. 巻 473
2. 論文標題 工具箱としての法	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 法学教室	6. 最初と最後の頁 45-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shotaro Shiba, Kazumi Shimizu	4. 巻 88
2. 論文標題 Does time inconsistency differ between gain and loss? An intra-personal comparison using a non-parametric elicitation method	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Theory and Decision	6. 最初と最後の頁 431-452
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11238-019-09728-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 坂本治也・秦正樹・梶原晶	4. 巻 44
2. 論文標題 NPO・市民活動団体への参加はなぜ増えないのか：「政治性忌避」仮説の検証	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ノモス	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 坂本治也	4. 巻 19
2. 論文標題 議員行動とNPO政策	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ノンプロフィット・レビュー	6. 最初と最後の頁 47-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11433/janpora.NPR-D-18-00021	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 坂本治也	4. 巻 63
2. 論文標題 地方議会における議題としての市民協働：会議録データに基づく試論的分析	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 関西大学法学研究所研究叢書	6. 最初と最後の頁 75-98
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 善教将大	4. 巻 110(7)
2. 論文標題 なぜ維新は勝利したのか：統一地方選の結果から見える維新支持の論理	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 都市問題	6. 最初と最後の頁 4-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shinichi Hirota, Kumi Suzuki-Loeffelholz, Daisuke Udagawa	4. 巻 25
2. 論文標題 Does owners' purchase price affect rent offered? Experimental evidence	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Behavioral and Experimental Finance	6. 最初と最後の頁 100260-100260
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jbef.2019.100260	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Inoue Akira, Shimizu Kazumi, Udagawa Daisuke, Wakamatsu Yoshiki	4. 巻 10
2. 論文標題 Luck vs. Capability? Testing Egalitarian Theories	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Review of Philosophy and Psychology	6. 最初と最後の頁 809 ~ 823
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s13164-019-00432-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Inoue Akira	4. 巻 53
2. 論文標題 Keith Dowding, Power, Luck and Freedom: Collected Essays	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Journal of Value Inquiry	6. 最初と最後の頁 657 ~ 662
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10790-018-9668-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秦正樹	4. 巻 70
2. 論文標題 若年層における候補者選択の基準：候補者の「見た目」と「政策」に注目したサーベイ実験より	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 公共選択	6. 最初と最後の頁 45-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 若松良樹	4. 巻 394号
2. 論文標題 集合概念と要素概念	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 早稲田政治経済学雑誌	6. 最初と最後の頁 18-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 若松良樹	4. 巻 91巻2号
2. 論文標題 所有の意義について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 法律時報	6. 最初と最後の頁 78-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 若松良樹	4. 巻 4号
2. 論文標題 生態的合理性の地平から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 法と哲学	6. 最初と最後の頁 123-128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shimizu Kazumi, Udagawa Daisuke	4. 巻 13
2. 論文標題 Is human life worth peanuts? Risk attitude changes in accordance with varying stakes	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0201547	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 坂本治也	4. 巻 717
2. 論文標題 政治的意味空間における市民とNPO	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 月刊地方自治職員研修	6. 最初と最後の頁 15-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計44件 (うち招待講演 20件 / うち国際学会 8件)

1. 発表者名 Akira Inoue
2. 発表標題 Comments on 'Open Borders: The Science and Ethics of Immigration'
3. 学会等名 Tokyo Society for Legal Philosophy (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 井上彰
2. 発表標題 Epistemic Democracy versus Epistocracy?
3. 学会等名 日本政治学会 2022年度研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 井上彰
2. 発表標題 The All-Subjected Principle, Justice, and Hume
3. 学会等名 ヒューム研究学会第32回例会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Masahiro Zenkyo, Akira Inoue, Haruya Sakamoto, Masaki Hata
2. 発表標題 Social Desirability Bias in the Preferences about the Youth Suffrage among Japanese Young Voters
3. 学会等名 Japanese Society for Quantitative Political Science (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 井上彰
2. 発表標題 ロールズの思想的「変遷」と哲学
3. 学会等名 第8回全所的プロジェクト(社会科学のメソドロジー)・ワークショップ(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Akira Inoue
2. 発表標題 Rawls and Pareto Efficiency
3. 学会等名 After Justice: John Rawls' Legacy in the 21st Century (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Akira Inoue
2. 発表標題 A Lockean Approach to Justice for Food Security under Global Climate Change
3. 学会等名 EurSafe 2021 "Justice and Food Security in a Changing Climate" (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 井上彰
2. 発表標題 実験政治哲学は何を目指すのか： 公衆の目 トロリー実験を題材に
3. 学会等名 日本選挙学会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 秦正樹
2. 発表標題 人はなぜ陰謀論に惹かれるのか?: COVID-19発生源に関するヴィネット実験による検証
3. 学会等名 日本政治学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 若松良樹
2. 発表標題 習慣形成とナッジ
3. 学会等名 行動経済学会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 坂本治也
2. 発表標題 新自由主義は市民社会の活性化をもたらすのか：自己責任意識と市民的参加の実証分析
3. 学会等名 日本NPO学会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 善教将大
2. 発表標題 Do Populistic People Support Populist Discourse?: Evidence from Comparative Survey Experiment
3. 学会等名 日本政治学会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 井上彰
2. 発表標題 世代間問題との政治哲学的対峙：新しい正義論に向けて
3. 学会等名 第2回フューチャー・デザイン研究会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akira Inoue
2. 発表標題 A Methodological Defense of Experimental Political Philosophy
3. 学会等名 Association for Social and Political Philosophy (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 井上彰
2. 発表標題 デモクラシーと将来世代: もう一つの境界問題と純粹民主的道具主義
3. 学会等名 日本法哲学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akira Inoue
2. 発表標題 A Negativist Defense of Democratic Instrumentalism
3. 学会等名 Workshop "International Relations and Political Philosophy" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 井上彰
2. 発表標題 実験政治哲学とは何か：「事前説明効果」実験を例に
3. 学会等名 公共選択学会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 秦 正樹・重村 壮平・Song Jaehyun
2. 発表標題 中点 (Mid-point) 選択のメカニズム：サーベイ実験による検証
3. 学会等名 公共選択学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 秦正樹
2. 発表標題 世論は野党に何を望むか？：2021年総選挙を事例としたヴィネット実験の検証
3. 学会等名 選挙学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 秦正樹・Song Jaehyun
2. 発表標題 争点を束ねれば「イデオロギー」になる?: サーベイ実験とテキスト分析の融合を通じて
3. 学会等名 日本政治学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 秦正樹
2. 発表標題 「"普通の"日本人」ほど騙される?: 政治的デマの受容メカニズムに関する実験研究
3. 学会等名 日本選挙学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Masaki Hata, Takeshi Iida, Yasuhiro Izumikawa, Tongfi Kim
2. 発表標題 Does a Hardline Policy Reassure the Public in an Allied State? Evidence from a Natural Experiment
3. 学会等名 The Australian Society for Quantitative Political Science (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoshiki Wakamatsu
2. 発表標題 Diversity: Importance and Relevance
3. 学会等名 IVR World Congress 2019 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂本治也・秦正樹・梶原晶
2. 発表標題 NPOへの参加はなぜ忌避されるのか：コンジョイント実験による忌避要因の解明
3. 学会等名 日本NPO学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 井上彰
2. 発表標題 正義は「実験」できるのか：実験政治哲学の可能性
3. 学会等名 北九州市立大学法学部講演会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 井上彰
2. 発表標題 医療資源の配分をめぐる正義論：運の平等論と倫理基準
3. 学会等名 日本生命倫理学会第30回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 井上彰
2. 発表標題 移民と民主主義：民主主義の政治的構想と移民の投票権
3. 学会等名 日本法哲学会2018年度学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 井上彰
2. 発表標題 鍋木・山岡コメントへのリプライ
3. 学会等名 第43回社会思想史学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 井上彰
2. 発表標題 ルールズと手続き的正義：ルールズ正義論の革新性とその今日的意義
3. 学会等名 日本政策銀行設備投資研究所（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 井上彰
2. 発表標題 上原賢司『グローバルな正義』へのコメント
3. 学会等名 早稲田大学政治思想研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 HATA Masaki
2. 発表標題 How can we observe the “Real Intention” in public opinion?: Based on research example using List Experiment
3. 学会等名 International Conference on Multicultural Democracy: Institutions, Structures, and Norms (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 秦正樹
2. 発表標題 “普通の人(自称)”が騙される? : サーベイ実験を通じた「反日」言説の受容メカニズムの検証
3. 学会等名 ISS Political Science Workshop (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 秦正樹
2. 発表標題 改憲世論の高まりは「北朝鮮のおかげ」? : フレーム実験とリスト実験の組み合わせによる実証的検討
3. 学会等名 日本政治学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 若松良樹
2. 発表標題 コメント
3. 学会等名 神戸大学社会システムイノベーションセンター主催シンポジウム「労働プラットフォームを働き方改革に生かせるか : UberJapan事件を受けて法と経済学の視点で考える (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 若松良樹
2. 発表標題 所有の意義について : 財産所有制民主主義論を手がかりに
3. 学会等名 日本学術会議第11回基礎法学総合シンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 坂本治也
2. 発表標題 市民社会組織としての労働者協同組合
3. 学会等名 厚生労働省主催労働者協同組合法周知フォーラム（九州・沖縄ブロック）（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 坂本治也
2. 発表標題 義務投票制に対する賛否態度の分析
3. 学会等名 関西行政学研究会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 坂本治也
2. 発表標題 非国家的政治学の可能性と限界
3. 学会等名 非国家的政治研究会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 坂本治也
2. 発表標題 市民社会組織としての労働者協同組合
3. 学会等名 日本協同組合学会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 坂本治也
2. 発表標題 議員行動とNPO政策：NPO政策を推進するのは誰か
3. 学会等名 日本NPO学会第20回年次大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 坂本治也
2. 発表標題 NPO・市民活動のイメージに関する実証分析
3. 学会等名 関西大学法学研究所第54回公開講座「市民社会研究サミット2018：今後10年の研究戦略会議」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 善教将大
2. 発表標題 候補者の笑顔と投票選択：若年層を対象とするコンジョイント実験より
3. 学会等名 公共選択学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 善教将大
2. 発表標題 候補者の笑顔と投票選択：若年層を対象とするコンジョイント実験より
3. 学会等名 日本選挙学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 善教将大・稗田健志
2. 発表標題 誰がポピュリストの言説を支持するのか：サーベイ実験による検証
3. 学会等名 日本選挙学会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計19件

1. 著者名 Akira Inoue, Kazumi Shimizu, Daisuke Udagawa, Yoshiki Wakamatsu	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Oxford University Press	5. 総ページ数 496
3. 書名 Autonomous Vehicle Ethics The Trolley Problem and Beyond (The Trolley Problem and the Ethics of Autonomous Vehicles in the Eyes of the Public: Experimental Evidence)	

1. 著者名 Akira Inoue, Masahihiro Zenkyo, Haruya Sakamoto	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Oxford University Press	5. 総ページ数 320
3. 書名 Oxford Studies in Experimental Philosophy Volume 4 (Making the Veil of Ignorance Work: Evidence from Survey Experiments)	

1. 著者名 秦正樹	4. 発行年 2022年
2. 出版社 中央公論新社	5. 総ページ数 272
3. 書名 陰謀論	

1. 著者名 内田 諭、大賀 哲、中藤 哲也	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 268
3. 書名 知を再構築する 異分野融合研究のためのテキストマイニング	

1. 著者名 若松 良樹	4. 発行年 2021年
2. 出版社 成文堂	5. 総ページ数 208
3. 書名 醜い自由	

1. 著者名 清水 和巳	4. 発行年 2022年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 178
3. 書名 経済学と合理性	

1. 著者名 善教 将大	4. 発行年 2021年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 224
3. 書名 大阪の選択	

1. 著者名 宇佐美誠・児玉聡・井上彰・松元雅和	4. 発行年 2019年
2. 出版社 法律文化社	5. 総ページ数 294
3. 書名 正義論	

1. 著者名 永井史男・水島治郎・品田裕（編著）坂本治也（著）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 384
3. 書名 政治学入門	

1. 著者名 井上彰（編著）、若松良樹	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 364
3. 書名 ロールズを読む	

1. 著者名 松元雅和・井上彰（編著）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 世界思想社	5. 総ページ数 256
3. 書名 人口問題の正義論	

1. 著者名 宇佐美誠(編著)、井上彰	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 232
3. 書名 気候正義	

1. 著者名 Edwin E. Etieyibo (ed.)、Akira Inoue	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Council for Research in Values and Philosophy	5. 総ページ数 399
3. 書名 Perspectives in Social Contract Theory	

1. 著者名 大西裕(編著)、秦正樹、善教将大	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 292
3. 書名 選挙ガバナンスの実態 日本編	

1. 著者名 松田憲忠、岡田浩(編著)、秦正樹	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 218
3. 書名 よくわかる政治過程論	

1. 著者名 大賀 哲、仁平 典宏、山本 圭、北田 暁大、新嶋 良恵、津田 正太郎、高原 基彰、西田 亮介、加藤 伸吾、富永 京子、中井 遼、秦 正樹、山腰 修三	4. 発行年 2019年
2. 出版社 法律文化社	5. 総ページ数 254
3. 書名 共生社会の再構築 デモクラシーと境界線の再定位	

1. 著者名 後 房雄、坂本 治也、山本 英弘、小田切 康彦、岡本 仁宏、初谷 勇、仁平 典宏、栗本 昭、善教 将大	4. 発行年 2019年
2. 出版社 法律文化社	5. 総ページ数 290
3. 書名 現代日本の市民社会	

1. 著者名 白鳥 浩、丹羽 功、黒木 美来、山本 健太郎、出水 薫、久保 慶明、芦立 秀朗、後 房雄、堤 英敬、森 道哉、河村 和徳、竹田 香織、伊藤 裕顕、善教 将大、岡田 浩、岡本 哲和	4. 発行年 2022年
2. 出版社 法律文化社	5. 総ページ数 336
3. 書名 二〇二一年衆院選	

1. 著者名 善教 将大	4. 発行年 2018年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 272
3. 書名 維新支持の分析	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	秦 正樹 (Hata Masaki) (10792567)	京都府立大学・公共政策学部・准教授 (24302)	
研究分担者	若松 良樹 (Wakamatsu Yoshiki) (20212318)	学習院大学・法務研究科・教授 (32606)	
研究分担者	清水 和巳 (Shimizu Kazumi) (20308133)	早稲田大学・政治経済学術院・教授 (32689)	
研究分担者	坂本 治也 (Sakamoto Haruya) (30420657)	関西大学・法学部・教授 (34416)	
研究分担者	善教 将大 (Zenkyo Masahiro) (50625085)	関西学院大学・法学部・教授 (34504)	
研究分担者	宇田川 大輔 (Udagawa Daisuke) (60434221)	阪南大学・経済学部・准教授 (34425)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------